公益財団法人　トヨタ財団　2014 年度イニシアティブプログラム助成事業

地域でつながるワカモノ×NPO
インターンシッププログラム 2014
活動報告書

WAKAMONO×NPO
INTERNSHIP PROGRAM

1995 年の阪神淡路大震災の後、ボランティア活動に多くの市民が参加しました。藤沢市内の生徒が青春 18 切符を持って仮設住宅へ通っていたことを昨日のように覚えているのは私だけではないと思います。その生徒たちは 20 年後の今、30 歳代となり、NPO や市民活動の担い手として多く活躍しています。2011 年の東日本大震災の際には、その世代のワカモノが復旧や復興に携わり、今でも現地で活躍しています。

人は誰でも、助けてくださいといわれれば、助けたいと思い、助けようとするのですが、助け方を学ぶ機会がなければそれも気持ちだけで終わってしまいます。内閣府の国民意識調査（2014 年度）によれば、7 割近くの市民は社会貢献活動に関して肯定的な意思を示していますが、実際に活動している市民は、1 割に留まっています。社会貢献活動に触れる機会は、近年明らかに増加しているものの、携わる機会は多いとはいえません。特に、勉学を第一の使命と捉えている生徒や学生に向けて、社会貢献活動が必要と推し進める環境は決して整っている状況ではありません。

一方、NPO 法の施行後、NPO 法人は約 5 万団体に、法人格を持たない団体はその 5 倍以上といわれ、藤沢市内でも 1000 を超える市民活動団体が存在しています。そして、その多くは 1980~1990 年代に活動を開始し、活動に意欲的な特定の市民を中心に実績を積み上げ、社会貢献活動を継続している状況にあります。多くの市民を巻き込み活動を進める必要のある市民活動団体は、今後、世代を問わず人を巻き込み育成するスキルを持つことは必須です。しかし、人の巻き込み方を学ぶ機会は少なく、割く時間も限られています。

本プログラムはそのような背景から、高校生を含むワカモノが、できるだけ早い時期に社会貢献活動に触れ、活動に参加し、未来をつくるための要素の一つとして記憶に残していただくことと、社会貢献活動の要である既存の市民活動団体の人を巻きこむチカラの醸成の二つを目指しています。

2014 年度、19 名のワカモノが 12 団体にインターンとして関わり、様々な体験を通して羽ばたいて行きました。本報告書はワカモノと市民活動団体が一体となって活動した様子を双方から原稿をいただき、編集したものです。最近になって、日本人の社会的活動意欲は低下してきているとの調査報告（国際比較調査グループ ISSP）もありますが、本報告書を通じて、19 名のワカモノの体験と市民活動団体のスキルアップに繋がる事実が伝わり、今後への期待が関係者のみならず社会全体へ広がることを祈念しています。

認定特定非営利活動法人　藤沢市市民活動推進連絡会
理事・事務局長
手塚明美

ABOUT はじめに

事業概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
事業内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
事業の流れ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
「一員」になることで生まれるもの・・・・・・・・・・・・・・・・・8

REPORT 活動のようす

活動報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
コラボ企画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・29
活動訪問・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・30
成果発表会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・32
プログラム評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・34

NOTE おわりに

活動報告書に寄せて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・38
編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・39
巻末資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・40

※本書に掲載されている情報は 2015 年 3 月 31 日時点のものです。

概要

高校生・大学生・専門学生・大学院生からインターン生を募集し、約 7 ヶ月間継続的に責任を持って NPO の活動に参加するインターン生に対し、200 時間を上限に活動奨励金を助成します。また、受入 NPO に対してインターン生と同額の受入奨励金を助成します。この経験を通じて、将来地域で行う公益的市民活動を担う人材が育成されること、そして地域の NPO における組織基盤の強化が進むことを期待しています。

プログラムの特徴として、高校生の参加と、団体への受入奨励金制度があります。若者が将来や進路について考える時期に市民活動を「経験する」と「経験しない」では後々の選択の幅に大きな違いがあり、社会人になった後の市民活動への関心や地域づくりにも大きく影響します。そこで、将来への種まきは早い時期に行う必要があると考え、本プログラムでは高校生をインターン参加対象に含めています。

また、若者と NPO をつなぐためには、団体側でコーディネートを行う人材が必要です。インターン生受け入れにより、必要なコーディネーターが育成されることで組織基盤の強化が期待できますが、受け入れに要した団体負担の対価として、インターン生の活動奨励金と同額を団体へ助成します。

目的

本プログラムは、社会貢献活動をできるだけ早い時期に体験し、市民としての役割を認識すると共に、社会生活を送る上での一つのテーマとして生涯にわたり積極的に社会貢献活動に取り組む市民を育成することを目的に以下の 3 点を柱に実施します。

人材の育成

将来、社会的問題や地域課題の解決を進めるボランティア活動、市民活動、NPO 活動などの**公益的な市民活動を担う人材が育成されること**

・市民活動に積極的に参加するような、これからの社会を担う社会人を育成します。
・企業とは違う非営利セクターの現状に目を向けることで視野を広げます。

組織基盤の強化

ボランティア、市民活動、NPO などの公益的な**市民活動における組織基盤の強化が進むこと**

・NPO 等の自立化を支援します。
・NPO 等のマネジメント能力を高め、ボランティアコーディネーション力の向上を進めます。

プログラムの展開

本プログラムを他地区における NPO 等の**中間支援組織での展開に活かすこと**

・他地区でのプログラム実施の参考資料として、プログラム実施報告書を作成します。

2 つの特徴

高校生の参加

若者が将来や進路について考える時期に市民活動を「経験する」と「経験しない」では後々の選択の幅に大きな違いがあり、社会人になった後の市民活動への関心や地域づくりにも大きく影響します。そこで、将来への種まきは早い時期に行う必要があると考え、本プログラムでは高校生をインターン参加対象に含めています。

受入団体への奨励金制度

若者と NPO をつなぐためには、まず団体側でコーディネートを行う人材が必要です。インターン生受け入れにより、受け入れの際に必要なコーディネーターが育成されることで組織基盤の強化が期待できますが、受入に要した団体負担の対価として、インターン生の活動奨励金と同額を団体へ助成します。

期待される波及効果

ステークホルダー	効果など
インターン生 （高校生・大学生・専門学生・大学院生）	・視野を広げ、インターン生自身の住む地域に目を向けることができる。 ・市民活動へ積極的に参加するシティズンシップが身につく。 ・地域の公益的市民活動が担う役割を理解することができる。 ・インターン期間に設定した目標や得られた成果により達成感や自信をつけることができる。 ・インターン生の自立を促す。 ・将来の様々な分野での活動に役に立つ人脈を作ることができる。
受入団体	・既存のメンバーがインターン生の研修等に携わることによって、受入担当者（コーディネーター）としての経験を積むことができる。 ・インターン受け入れ時に発生する負担を受入奨励金により軽減することができる。 ・インターン生が団体の社会的使命に共感し、新規メンバー・会員の獲得に結びつく可能性がある。 ・本プログラムに参加することにより団体の PR を行うことができる。 ・外からメンバーが入ることにより、斬新な意見や新たな視点を団体の活動に取り入れることができ、組織の活性化につながる。
実施地域 （藤沢市、湘南地区）	・地域でボランティア活動に参加する若者が増え、市民活動が促進する。 ・プログラム実施により、地域の学校と情報交換や共有を行い、連携強化を図ることができる。 ・本プログラムを参考に、ワカモノが市民活動に参加しやすい仕組みづくりを構築することができる。
中間支援組織 ※ NPO 等、市民活動団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動を行う団体です。	・スタッフのコーディネーション能力を向上することができる。 ・地域で活動する NPO の活動状況をより一層把握することができる。 ・本プログラムを参考に、地域独自のプログラムを作成することができる。 ・地域の若者へのアプローチができ、プログラム以外の企画でも協力関係が築ける。
公益財団法人 トヨタ財団	・市民活動に携わる若者を増やし、日本の将来において、視野の広い社会人育成に貢献することができる。 ・「高校生を対象に含んだインターンシッププログラム」という、他団体が実施していない取り組みを拡げることができる。 ・公益財団法人トヨタ財団の設立趣旨や活動内容を全国に周知することができる。 ・本プログラムをきっかけとして、全国の中間支援組織との関係が密接となり、今後の事業発展につなぐことができる。

数字で見る「ワカモノ× NPO」

「ワカモノ× NPO」と銘打ち、長期のインターンシップ事業として、2014 年 5 月から始まった当プログラムの数字から見た概要です。エントリーは 21 団体、学生は 26 名でした。マッチング成立は 14 団体、学生数 23 名で活動を開始しました。途中に諸事情で、辞退者もあり、12 団体、学生 19 名で終了いたしました。学生の内訳は、高校生 1 名、大学生 18 名。学業との両立に苦労しながらの団体活動と、事務局開催の定例会ほかのイベントでも、スケジュールの調整をしながら、中間報告会、成果発表会まで走りきりました。成果発表会では、学生自らの企画・運営で進行までこなして、達成感・充実感を存分に味わえるプログラムとなりました。

オリエンテーション

開催日：2014 年 7 月 19 日（土）　参加者：20 名

インターンシップの意義、自分の目標は何かを考え、本事業の理解を深めるための機会としました。アドバイザーの古田氏より活動の心構え、藤沢市市民活動センターの宮本氏より留意点の講義後、自己紹介を行いました。最初はやや緊張した様子でしたが、ワークショップを通して除々に打ち解けていきました。

受入団体座談会

開催日：2014 年 9 月 27 日（土）　参加者：11 名

第 1 回インターン定例会と同じテーマで話し合いを進めました。団体側の意見から、活動日程と学業との調整が思った以上に難しいことがわかりました。役割分担で他のボランティアとの違いを出すコーディネート等、受け入れ側の体制の強化ができたところもありました。

中間報告会

開催日：2014 年 11 月 8 日（土）　参加者：33 名

古田氏の進行のもと活動内容や受入団体の特徴について自分の言葉での発表を行いました。自分の発表後に次の発表者へコメントする形式で、お互いの活動をよりよく知る機会となりました。また、各団体の担当者やトヨタ財団の方を前に、インターン生たちはいつもより緊張していた様子ではありましたが、一人ひとりの発表する姿からは団体の一員としての頼もしさが出てきました。

第 3 回インターン定例会

開催日：2015 年 1 月 24 日（土）　参加者：19 名

成果発表会の企画・運営・進行などをインターン生自身でやることになり、今後のスケジュールや役割分担などの話し合いの結果、ネットワークのさらなる拡大を目指して、発表会後に「交流会」を開催することになりました。会場の下見などの日程も決めて、いよいよ具体的なイメージを固めていきました。

第 1 回インターン定例会

開催日：2014 年 8 月 30 日（土）　参加者：21 名

活動開始から約 1 ヶ月の時点での気づきや感想を共有しました。今後の活動に対するモチベーションを高めるためのワークショップを実施しました。自分から声をかける、相手の話に質問をする等、積極的に取り組んでいました。お互いの活動に興味が湧き、定例会終了後もセンター内で話をしている姿もみられました。

第 2 回インターン定例会

開催日：2014 年 10 月 11 日（土）　参加者：15 名

各々の団体の活動を、分かり易く、自分自身の言葉で伝えるワークショップをやりました。言葉を選びながらの発表では聞くだけではなく、質問やアドバイスなど団体の一員としての顔になっていました。

研修・相談会

開催日：2014 年 12 月 26 日（金）　参加者：14 名

成果発表会のテーマを「団体の紹介」に統一しました。プロモーション用の動画やパワーポイント作成に向けた研修と相談会を実施しました。湘南市民メディアネットワークの中野さんと湘南ふじさわシニアネットの戸島さんからの講義後に作成スケジュールや準備物など具体的なシート書き込みを実施しました。1 月中には、発表方法を決定した上で、相談日を設定しました。

成果発表会

開催日：2015 年 2 月 21 日（土）　参加者：63 名

一般の方も含め、多数の方にご参加いただきました。団体ごとに各々力作でのプレゼンテーションとなり、進行もスムーズでした。7 ヶ月という長丁場での活動に、現場である各団体でのポジションやインターン生間の横のつながりもしっかりできたようで、活動終了後も関わりたいという嬉しい感想も聞けました。

事業の流れ

２０１４

５月

５月上旬～６月上旬　受入団体の募集開始

６月

各校への広報活動等

６月上旬～７月上旬　インターン生募集開始

４日（水）18:30 ～ 20:30　受入団体への事前説明会

20 日（金）　受入団体申し込み締切

25 日（水）17:30 ～ 19:00　第１回学生説明会

29 日（日）10:00 ～ 11:30　第２回学生説明会

７月

４日（金）　インターン生募集締切（第１次）

10 日（木）　インターン生募集締切（第２次）

19 日（土）10:30 ～ 12:00　オリエンテーション

各受入団体にて活動開始

８月

30 日（土）13:30 ～ 16:00　第１回インターン定例会

９月

27 日 (土) 13:30 ～ 16:00　受入団体座談会

10月

11 日（土）13:30 ～ 16:00

第 2 回インターン定例会

11 月

8 日（土）13:30 ～ 16:00　中間報告会

12 月

26 日（金）13:30 ～ 16:00　研修・相談会

２０１５

1 月

24 日（土）13:30 ～ 16:00

第 3 回インターン定例会

インターン活動期間終了

2 月

15 日（日）成果発表会会場下見・打ち合わせ

19 日（木）成果発表会事前準備

21 日（土）13:30 ～ 18:00

成果発表会・交流会

3 月

「一員」になることで生まれるもの

プログラム・アドバイザー
（筑波大学大学院人間総合科学研究科博士後期課程）
古田　雄一

「NPO へのインターンシップ」とは、一体どのようなものでしょうか。例えば、よくあるボランティア活動と「NPO インターンシップ」は、何が違うのでしょうか。これは、インターン生のオリエンテーションで、私が皆さんに投げ掛けた問いでした。

そのときお話しした私なりの答えの一つが、団体の「お客さん」や「お手伝い」ではなく、団体の「一員」になるということでした。つまり、インターン生は、団体の方々と一緒に問題を考え、動くことが期待されるのです。

団体の「一員」になることで、当然責任も発生します。インターン生の皆さんも、きっとプレッシャーを感じたでしょうし、インターン生を受け入れる側の方々も、ときに「どこまで任せて良いのだろうか」と迷いや葛藤に直面したこともあったかもしれません。

しかし、そうした「任せる－任される」「期待する－期待される」という関係を通してこそ生まれるものが数多くあるということを、このプログラムは教えてくれたように思います。例えば、受け入れ団体の方々の話を伺うと、インターン生に「思い切って任せてみる」ことで、若者の新鮮なアイディアを活かした新たな取り組みや工夫が生まれたようでした。

また、インターン生の皆さんに自身の変化を訊ねると、普段は出会えない大人との出会い、団体が取り組む社会的課題への関心の高まり、様々なスキルの習得…という具合に幅広い答えが返ってきましたが、これらはいずれも、団体の一員として活動したからこそ得られたものだと思います。とりわけ私が大切だと感じたのは、インターン生の皆さんから伝わってくる「自信」でした。責任と期待を伴う役割を担って活動し、その努力が周りの人たちから認められていく。そのような厳しくも温かい関係の中で育まれる、「自分も地域や社会の力になれる」という自信は、将来の地域や社会の担い手としての大切な支えとなることでしょう。

今年度は 1 年目ということで課題もありますが、インターン参加者にとっても、受け入れ団体にとっても、そしてこのプログラムに関わる方々にとっても、大変有意義な試みであったと思います。今回の「手応え」を大事にしながら、是非さらに良いプログラムへと発展していくことを願っています。最後になりますが、このようなプログラムをともに作っていく「一員」に加えていただけたことに、深く感謝いたします。

古田　雄一（ふるた・ゆういち）
筑波大学大学院でシティズンシップ教育の研究に従事する傍ら、高校生の地域・社会参画に取り組む「湘南まちいくプロジェクト」の代表を務める。藤沢市青少年問題協議会委員（平成 25 ～ 26 年度）、日本シティズンシップ教育フォーラム運営委員。

REPORT

活動報告

1　認定特定非営利活動法人　地球市民 ACT かながわ／TPAK
大場　将希さん
村上　紘寿美さん

2　認定特定非営利活動法人　藤沢市市民活動推進連絡会
鳥海　花菜さん
中村　麻梨奈さん

3　NPO 法人　湘南遊映坐
泉　美菜子さん
門倉　啓介さん

4　特定非営利活動法人　湘南 DV サポートセンター
松井　彩さん
森迫　恒平さん

5　特定非営利活動法人　横須賀創造空間
高橋　明日香さん
松葉　健太朗さん

6　チャリティーサンタ湘南支部
秋友　亮輔さん
本間　和樹さん

7　藤沢市民まつり実行委員会
小山　優子さん
須貝　里美さん

8　特定非営利活動法人　市民農園を拡げる会
福田　友裕さん

9　特定非営利活動法人　NPO サポートちがさき
杉本　美晴さん

10　特定非営利活動法人　ハーモニーインターナショナル
中間　千尋さん

11　シネコヤ
三上　尚美さん

12　辻堂ライフセービングクラブ
水澤　慶司さん

WAKAMONO × NPO
INTERNSHIP PROGRAM

認定特定非営利活動法人　地球市民 ACT かながわ／ TPAK

活動内容

アジアの子ども達が一人でも多く教育を受け、幸せで明るい未来を自ら切り開けるよう、1993 年よりタイ、ミャンマー、インドにおいて子ども達の教育と自立のための支援活動を行っています。

団体情報

主な活動エリア：横浜市

TEL：045-622-9661

FAX：045-622-9661

URL：http://www.tpak.org/

受入担当者名：伊吾田　善行

インターン生　大場　将希さん (高校 1 年生)

Q1.

事務局の掃除や、寄付する書き損じハガキの集計、イベントで販売する商品の手入れと言った活動を行いました。
自分のスケジュールの関係もあり、あまり大きなことは出来なかったがこの作業一つ一つがつもりつもって国際協力に繋がると考えると、どんなに小さなことでもやる気が出た。

Q2.

以前から国際協力には興味があったが、自分にできるかどうか不安で、なかなか一歩が踏み出せなかった。
しかし、今回の活動で非力な自分にも国際協力が出来るということに気づき、一気に世界が広がった。
国際協力に限らず、いろんなことに挑戦していきたい。

Q3.

ニュースや新聞などで活躍している企業や団体などを見ると、まずは紹介されなかったところで何をしているのだろう、また、その中で自分ができることはなんだろうと考えるようになった。
まだ自分は高校生なので時間がなく、実際に行動することはできずにいるが、大学生になったら、考えたことを実行してみたい。

Q4.

自分にはまだまだ可能性があるということに気づいたので、今まで諦めていたジャンルにも、一歩を踏み出していきたい。
また、予定をキャンセルしてしまうこともあったので、スケジュール管理能力も鍛えていきたい。

Q5.

半年間という短い期間でしたが、ありがとうございました。
スケジュールの関係上、何う回数はとても僅かでしたが、その分 1 回 1 回の活動が濃く、とても印象に残る活動になりました。
今後も、時間を見つけてはそちらにボランティアに伺いますので、今後もよろしくお願いします。

ある日の活動記録より

〇一人で決めたことよりも、二人で話し合った時、二人で話したことよりも、4 人で話し合った時がより良いものになった。
〇自分で自分の状況を把握できずに、周りに迷惑をかけてしまった。　（インターン生　大場　将希）
●少しずつ活動にも慣れ、スタッフとも話しができるようになりました。
●丁寧にボランティアができ、積極的にコミュニケーションをとることができました。他校との学生交流会に参加して、良い刺激になったと本人が喜んでくれました。　（受入担当　伊吾田　善行）

Q1: インターンの期間中、どのような活動を行いましたか？ Q2：インターンの活動を通じ、気づいたことや学んだことは何ですか？ Q3：インターンの活動を通じ、自分の中でどのような変化がありましたか？ Q4: インターンの活動で得たことを、この先どのように活かしたいですか？ Q5：受入団体へのメッセージをお願いします。

インターン生　村上　紘寿美さん（大学４年生）

Q1.

事務局では、パソコン作業、フェアトレード品･雑貨品の整理、掃除、Pop づくりなど様々な作業を行いました。

イベントでは、フェアトレード品・雑貨品の販売、接客、タイラーメン (TPAK 名物) の販売を行いました。

2 月に開催されたよこはま国際フォーラムでは、半年前から企画、運営を重ねセミナーを行いました。当日のセミナーでは、来て下さった方に国際協力ボランティアをもっと身近に感じてもらおうと、クイズを出したり、私たちの体験談を話したりしました。

Q2.

インターンを通じて学んだことは、人を思いやることの大切さです。TPAK には毎日のように、老若男女問わず様々なボランティアの方が来て、活動を行います。様々な人が集まる TPAK ですが、和やかな雰囲気の中、皆さんいつも楽しそうに活動をしています。このような温かい場は、一人一人が思いやりを持って活動することによってできるのだなと活動を通じて感じました。また、インターンを通じて、世の中にはおもしろい大人や同年代の人たちが沢山いるということを初めて知りました。

Q3.

他のインターン生に刺激を受けて今まで興味のなかった分野に興味を抱くようになりました。また、TPAK のスタッフやボランティアの方々とお話をしているうちに、自分の無知さを知り、政治や経済をはじめ、色んなことに興味を持つようになりました。そして、少しだけ自分に自信が持てるようになりました。

Q4.

TPAK で学んだことを生かして、NGO 職員になるという将来の夢に向けて少しずつ進んでいきたいです。その第一歩として、4 月からは大学院での勉強を頑張ります。

また今回ワカモノ×NPOインターンシップ､TPAKで出会った人々とこれからも何らかの形で関係を続けていければと思います。

Q5.

TPAK の皆様、ボランティアの期間も含め、4 月から約 1 年間本当にお世話になりました。ご迷惑をおかけしたことも、失礼なことをしたことも沢山あったと思います。未熟者の私をいつも温かく見守って下さり、ありがとうございました。TPAK で学んだこと、TPAK で出会った温かい人々は私にとって大きな財産になりました。これからも素敵な TPAK の皆さんでいてください。本当にありがとうございました。また、今後も TPAK の活動に何らかの形で携わりたいと思っています。今後とも宜しくお願い致します。

ある日の活動記録より

○他のボランティアの方と声を掛け合って活動ができた。

○ニュースレターの入稿日には、作成される現場を間近で見て、とても勉強になりました。　（インターン生　村上　紘寿美）

●大学で国際協力を学んでいることもあり､深く考え､理解しよう､学ぼうという意欲が溢れています。後輩学生への指導もしてくれて、今後も期待しています。

●協調性や仕事の進め方などを学び、試行錯誤ながらも着実に成長が伺える。　（受入担当　伊吾田　善行）

受入担当者からのメッセージ

大場くんへ：TPAK に来てくれてありがとうございました。大場君の自信につながったことが本当に嬉しいです。大場君にはこれからたくさんの可能性が待っています。どんどんチャレンジしてみてください。君ならできる！

村上さんへ：今まで本当にありがとうございました。大学院で勉強に励んで、将来「相手の立場に立って考え行動する」NGO スタッフになられることをスタッフ一同お祈りしています。頑張って！

認定特定非営利活動法人　藤沢市市民活動推進連絡会

活動内容

市民活動団体等への活動支援事業を通し、市民活動の推進とまちづくりに寄与することを目的に活動しています。3.11 支援プロジェクトでは、被災地の商品販売やリユースパソコンの寄贈、東北の情報発信を通した支援活動を実施中。

団体情報

主な活動エリア：藤沢市

TEL：0466-53-7366

FAX：0466-53-7366

URL：http://f-npon.jp/

受入担当者名：宮本　裕子

インターン生　鳥海　花菜さん（大学 1 年生）

Q1.

主な活動は、全 6 回行った東北物産市です。地域のお祭り等で出店し、東北の食べ物や仮設住宅の方々の手作り商品等を販売しました。このプロジェクトを知って貰う事、被災地で活動を続ける団体やその団体の商品を伝える事、藤沢から東北に出来ることを発信する事を目指しました。又、宮城県でのフィールドワークや NPO サポートちがさきさんのご協力の下、一から企画したワークショップを行いました。

Q2.

参加当初は、東北が今どんな状態であるか、自分に何が出来るのか、どんなことが求められているのか、全くわかりませんでした。しかしこの活動を通して、さまざまな知識を身に付けることが出来、少しずつではありますが自分の頭で考えられるようになりました。そしてまだまだ勉強する必要がありますが、社会のルールなども学べました。メール一通書くのにも苦戦しましたが、今ではかなり成長したと思います。この経験をこれからに活かしたいです。

Q3.

自分の目で現状を見て、現地の人に直接お話を聞いて、そして復興のために出来る取り組みをして、東北に対する想いがより強くなったように感じます。これまでは、当時テレビで見たあの悲惨なことが、本当にこの日本で起こったのだと理解できてなかったように思います。また、様々な形で社会に貢献できる活動をする人や団体に対してより深く興味を持つようになりました。このプログラム終了後も何らかの形でこういった活動をしていきたいです。

Q4.

これからも東北への支援を続けたいと思っているので、27 年度から新しい団体でのインターンにチャレンジし、新たな形で東北と関わっていこうと思っています。また、この活動を通して、学生のうちに積極的にやりたいことに挑戦しようという気持ちが生まれました。その中で、少しでも社会にいい風を吹かせられる大人になれるように学びをつけていきたいです。これからも頑張ります！

Q5.

この半年間、本当にありがとうございました。何も出来ない状態で飛び込んで来て、沢山ご迷惑をおかけしました。すべてが良い経験となり、皆様の下でインターンが出来て幸運だったと心から思います。今後、イベントなどでもし人手が足りなくなったらぜひ私を呼んでください！お世話になりました。

Q1: インターンの期間中、どのような活動を行いましたか？ Q2：インターンの活動を通じ、気づいたことや学んだことは何ですか？ Q3：インターンの活動を通じ、自分の中でどのような変化がありましたか？ Q4: インターンの活動で得たことを、この先どのように活かしたいですか？ Q5：受入団体へのメッセージをお願いします。

インターン生　中村　麻梨奈さん（大学４年生）

Q1.

８月に宮城県を訪問し、現状を見たり、復興に向けて活動する方々のお話を聞きました。藤沢周辺のお祭りに計６回出店し、東北の方々から仕入れた食品や雑貨の販売を通じ、その取り組みを湘南の方々に伝える活動をしました。また湘南の方から東北の方々に向けて、応援の声を伝える取り組みもしました。

１月には仙台から講師をお招きしてイベントを開催しました。直接お話しを聞く事で３．１１がより身近になり風化防止や防災意識の向上に繋がっていたら嬉しいです。

Q2.

気づいた事は、自分の能力の低さです。もっとこうなりたいと思う事が多く、自分のできなさに多々嫌気がさしていました。しかし同時に、思いのある人が集まった時に生まれるパワーの大きさに驚きました。一人でできる事は少ないけれど、受け入れ担当の宮本さん、同じインターンの鳥海さん、そしてボランティアの高校生・大学生の皆さんや東北で活動されている方々、力を合わせる事で、沢山のイベントを成功させる事ができました。多くの方と協力して活動できてとても楽しかったです。

Q3.

自分から周りの人に目が行く様になりました。「自分の成長」にばかり目がいっていたのが、関わる方々にどれだけ楽しんで一緒に活動して貰えるか、また自分好みで作っていたポスターを、イベントのターゲットの人の目につくポスターとは、という視点で考えられる様になり、また東北の方々に自分たちの思いを伝える事で、どれだけ快くご協力頂けるかといった事など、関わる人みんなのHAPPY度をどうすれば上げられるかが第一に出てくる様になったのは大きな変化だと思います。

Q4.

インターン中に感じた理想の自分とのギャップを埋められる様に失敗を恐れずに努力していきたいです。「ここからは次回やろう」という感覚で仕事をする事が多く、「今日できる事は何もない」と思える所まで日々進めていけたら、余裕がうまれて考える時間が増え、＋αの価値に繋がっていくと感じたので、今後意識していきたいです。活動中の気付きや学びは、受入団体の方々から得たものが多かったですが、これからは自分で気づいたり学んだりしていきたいです。

Q5.

宮本さんをはじめ、連絡会の皆さまのおかげで、半年の活動が充実していてあっという間でした。大変お世話になりました。ありがとうございました。前半の期間、沢山ご指導いただき、思った事をズバッと言ってくださり、後半は私達を信じて任せてくださり、私達の学びに繋がっていました。言葉では言い表せないくらい、感謝の気持ちで一杯です。何をするかも大事だけど、“誰とやるか”も、大きい要素だと思うようになりました。連絡会でインターンをできて幸せ者でした。ありがとうございました。

受入担当者からのメッセージ

鳥海さん、中村さん。この半年間、二人が居なかったら実現できなかった事ばかりでした。そして、二人が「できること」や「経験」を増やし、めざましいスピードで成長していく様子を傍で見られて幸せでした。活動は長時間にわたり、大変だった事も多かったと思いますが、お二人のこの先の人生に、少しでも良い変化をもたらす事が出来れば幸いです。明るくポジティブで負けず嫌いな鳥海さん、ほんわかしつつもしっかり者の中村さん。二人のバランスは奇跡でしたね。これからも、何かのカタチでつながり続けていきましょう。半年間ありがとうございました。

NPO法人　湘南遊映坐

活動内容

湘南鎌倉や東北被災地を回遊する映画祭を通して、多彩なアートに親しめる機会を提供。映画と芸術文化の土壌を耕し、人々に心の潤いをもたらすことを目的に活動。ミニシアターのなくなってしまった地方を「遊映」する出張映画祭を企画運営しています。

団体情報

主な活動エリア：鎌倉市・藤沢市・東北被災地

TEL：0466-65-0123

FAX：無し

URL：http://www.trailerfes.jp/index.html

受入担当者名：岡　博大

インターン生　泉　美菜子さん（大学４年生）

Q1.

主に、デザイン担当として湘南遊映坐のイベント告知用フライヤーの制作を行いました。主催者や印刷所とのやりとりをして、理想の形になるよう調整を重ねました。また、イベント当日のためのＴシャツを作ったり、スタッフとして会場でサポートもしました。その活動を報告したことがきっかけで、別の NPO 団体から声がかかり、茅ヶ崎ラスカでの東北復興支援のイベントのポスター、チラシのデザインもしました。

Q2.

中学から都内に通っていて、長く住んでいるにもかかわらず地元の組織や活動と関わる事があまりなかったので、自分の住む地域で様々な問題に取り組んだり、よりよい生活のために努力をしている人達がいるんだと知れました。また、そんな中に自分と同世代の若者が居て、それぞれに自分の活動に意義を見いだして自主的に参加している事がすばらしいと思いました。

Q3.

家族で地域の活動について話す事が多くなりました。今までは自分が普段活動している都内の話や、学校の話題が多かったですが、母や祖母がずっと暮らしている家の近辺でどのような変化があるのか、身近ですが知らなかった事が NPO のインターンによって知れたので、共有できました。

また、画一的な郊外の中規模都市ではなく、藤沢やその周囲特有の文化があることを改めて意識しました。

Q4.

前から自分にできることで地元になにか還元出来ないかと思っていたので、そのきっかけができたのではないかと思います。デザインの需要は都市部ではしばしば経済活動と密接に結びつき一介の若者では入り込む隙があまりないですが、自分の暮らす地域に目を向けると文化的な面でたくさんの需要があり、活躍できる場もあるのではと可能性を感じました。

Q5.

大変お世話になりました。偶然でしたが、この様な形で地域の映画にまつわる文化的な活動に参加出来て非常に良い経験となりました。湘南遊映坐のイベントは様々な立場の方のご協力や支援で成り立っている、いわば沢山の木で組んだやぐらの様な、拓けていてかつホームとしての安心感もある、素敵な場だと思います。毎回違う木で組み建てるのはとても大変ですが、一度やぐらが立つとそこは祭りの会場になり、楽しい時間をすごさせてくれます。また、折りにつけてお手伝いさせて頂けたら幸いです。有難うございました。

Q1: インターンの期間中、どのような活動を行いましたか？ Q2：インターンの活動を通じ、気づいたことや学んだことは何ですか？ Q3：インターンの活動を通じ、自分の中でどのような変化がありましたか？ Q4: インターンの活動で得たことを、この先どのように活かしたいですか？ Q5：受入団体へのメッセージをお願いします。

インターン生　門倉　啓介さん（大学２年生）

Q1.

映画祭本番の会場設営、運営、ミーティング、理事長と一緒に映画祭の運営のため、各地を歩き回り、映画祭ができるまでの過程を一番近くで体験しました。地元の方への挨拶回りや、会場下見、ゲスト交渉、作品の選考、劇場へのチラシ配布等、映画祭を形作るための裏方の役割も経験しました。また、他のイベントにボランティアとして参加し、イベント運営の研修や、上映作品を鑑賞してその作品のエッセイの執筆、ミーティングの様子をビデオカメラでの撮影なども行いました。

Q2.

映画祭を一つ企画、運営するにあたっても多くの目に見えない労力がかかっているということです。何度も会場に足を運び、事務の方と関係性を作っていき、ゆっくりと企画を進めていく過程を間近で経験できました。運営のための助成金獲得や、ほかの団体との連携など、表面的なかかわりでは、見えてこない部分を知ることができました。インターン前に理事長がおしゃっていた「縁の下の力持ち」という言葉の意味がそこで初めて分かりました。

Q3.

就業に対する考えが変化しました。今回のインターンを通して、NPO で生活をしていこうとしている人や、自分の目標を追いかけながら NPO に携わっている人、今の職に就きながら夢を追っている人にお会いすることで、ライフワークの豊かさ、今まで自分が見てきたものの狭さを思い知りました。生きるということに正解は無く、どのような道を進んでもその人なりの結果が待っている、失敗は必ずしもマイナスな経験ではないと思うことができました。

Q4.

私が所属している学科名は「映像身体学科」です。主に映画学と身体学を学んでいます。遊映坐では小津安二郎監督を始め、映画文化について知らず知らずのうちに勉強することができました。この経験を学科での勉学に活かし、このインターンで得たものをただの経験で終わらせるのではなく、今後の学生生活あるいはその先へとつながる体験にすることができます。

Q5.

最初このインターンの話を聞いたときは、自分がインターンをできるのかどうか、不安に思っていました。でも、活動を重ねていくにつれて、だんだんと理解できることが増えてきて、活動が楽しくなってきました。こんなことが映画祭の運営につながるのだろうか、と思ったこともありましたが、振り返ってみると、一つ一つが大切で欠かすことのできない過程なのだと、今なら思えます。遊映坐で経験できたことは今後必ず自分にとってプラスになると思います。短い間でしたがありがとうございました。

受入担当者からのメッセージ

泉美菜子さんと門倉啓介くんの二人には、自らの視野と可能性を広げ、人間力の根っ子を鍛えることができる機会を提供できたら、という思いで受け入れさせていただきました。遊映坐ならではの活動内容として、主催する映画祭に関する仕事を積極的に任せて、力を発揮してもらいました。泉さんには、映画祭のチラシ、ポスター、スタッフＴシャツ、NPO のパンフレット等のデザインをお任せして、専門のデザイン力を発揮していただきました。仕事を通じて、映画文化と地元湘南鎌倉の魅力にも触れてもらえたのではないかと思います。また、門倉くんには、市民映画祭はいかにつくられていくのか、企画・運営のプロセスを、裏表すべて見てもらい、体験してもらいました。インターンが終わる頃には、堂々とした頼りになるスタッフに成長していました。今回の経験を礎に、社会に貢献できる人材として、その才能をさらに発揮していってもらえたら幸いです。

特定非営利活動法人　湘南 DV サポートセンター

活動内容

女性と子どもの人権が侵害されることなく、誰もがその人らしくいきいきと暮らすことのできる社会をめざし 1999 年に設立。特に、ドメスティック・バイオレンス、虐待、いじめなどの被害を受けた女性や子どもの支援、被害者支援に取り組んでいます。

団体情報

主な活動エリア：藤沢市

TEL：090-4430-1836

FAX：0466-36-6616

URL：http://kodomo-support.org/

受入担当者名：渡邊　千尋

インターン生　松井　彩さん（大学 2 年生）

Q1.

主な活動は、月一のミーティング参加と期間中二回のイベントの裏方作業。ミーティングでは、他のユースリーダーが興味関心のある分野を講義したり、イベントの案を練ったりする。イベントは、8 月のユースリーダー養成講座と 12 月のスクールバディサミットを行った。ユースリーダー養成講座では裏方作業と、参加者が意見を言いやすい空間作りをした。スクールバディサミットでは、昼の立食会を担当し、昼食やお菓子の手配、部屋の装飾をした。また、団体主催のワークショップを数回見学した。

Q2.

インターンの活動で最も大きな学びは、自分の力の無さと、それ故に動かなければ現状を変えられないという事実を実感した事です。同時に、自分の言動が周囲に与える影響が思っていた以上に大きいと知り、言葉やとるべき態度を考えるようになった。

また、イベントでは裏方作業を行うことが多く、表がうまく動くには裏は相当動き回らなければならないことを学んだ。私はあくまでも裏の手伝いをした程度なので、裏に徹する事務の方や多くの大人の支えがどれだけ重要なのかを痛感した。

Q3.

このインターンを通じての自分の中の変化は、精神的な逞しさやしたたかさを得ました。失敗や予想外の事態に落ち込んだり狼狽えてる暇があるなら、まずはその事態に対処し、落ち着いたらとことん原因と取るべきだった行動を考えるようになった。

また、知らないことを有耶無耶にしたり恥ずかしがったりせずに、素直に周りの人に意見を訊けるようになった。何かをしなければならないなら、他の楽しみも発見しようと思うようになり、新しいことにも挑戦するようになった。

Q4.

人と人との繋がりを作ることで、子どもを支える個人ではなく、ネットでいたいので、湘南ＤＶサポートセンターやそこで出会った人との繋がりを続けていくようにする。そのために、まず自分自身が成長し、周りに認められるようになる。

また、イベントで表に立つ人たちが一切の不安なく仕事に専念できるように、裏方の仕事を覚え、縁の下の力持ちになりたい。人がその人らしく居られる土台を作るために、とりあえずしばらくは勉強と精進です。

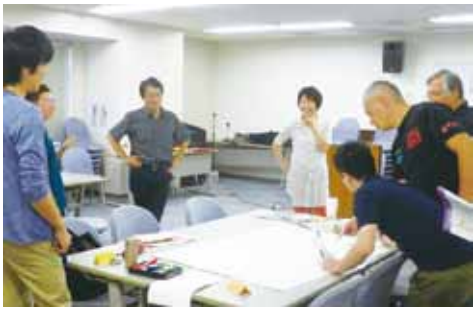
Q5.

湘南 DV サポートセンターでインターンをすることにより、多くのことを体験し、学び、そして成長しました。ここでの活動を通して、自分に自信が持てるようになり、また、将来のこともしっかりと考えるようになりました。ここで得たものは、私の身となり骨となり、私を大きくしてくれました。本当に、ありがとうございます。

インターンの期間が終わったあとも、自身の学びの為にも活動に関わらせて頂けたら、と思います。

Q1: インターンの期間中、どのような活動を行いましたか？ Q2：インターンの活動を通じ、気づいたことや学んだことは何ですか？ Q3：インターンの活動を通じ、自分の中でどのような変化がありましたか？ Q4: インターンの活動で得たことを、この先どのように活かしたいですか？ Q5：受入団体へのメッセージをお願いします。

インターン生　森迫　恒平さん（大学３年生）



Q1.

一番大きなイベントとして、各校のスクールバディが集まる、スクールバディサミットに参加させていただいたことが印象に残っています。ファシリテーターとしてワークショップなどの活動を促す役割などを行いました。さらに、このサミットを開催するにあたり行う準備にも参加しました。チラシ作り、ユースリーダーとしてのミーティングへの参加、そこでのサミットの企画など、また、それ以外にもデーティングバイオレンス防止プログラムなど、様々な活動に参加させていただきました。

Q2.

一番はやはり、いじめについてさらに考えを深めることができたことです。いじめは完全に無くすことができないかもしれない。ただ、いじめを無くしていく、防止していく、ことはできる。それが、社会における暴力を防止することにつながるのではないか。そう考えることができ、様々な職業柄、立場上の関係で生じる"すき間"を埋めるため、今自分ができることを考えるきっかけをいただきました。

Q3.

様々な働き方、生き方をしている大人の方に出会い、自分の信念、想いに沿って生きていくことを学びました。同じことを学んだインターン生が他にもいて、その話をしました。その方は、自分の好きなように生きていいんだ、と再確認したと言っていました。僕も、自分の夢に向かって、このインターンの経験を踏まえ、努力し続けようと改めて思いました。

Q4.

僕は将来、高等学校の教員をめざしています。生徒指導の基本となる、生徒理解のため、今回の経験はとてもためになるものでした。生徒の立ち場になって企画をしたり、チラシを作成したり、直接生徒と触れ合ったことを、今後、生徒を一番に考えた教員としての生き方につなげていきたいです。

Q5.

多くの経験をさせていただき、感謝しております。ありがとうございました。たくさんの事を学ぶなかで、早く教員になり、生徒のために働きたいと思う気持ちでいっぱいになりました。今後とも、時間の許す限りではございますが、ユースリーダーとして活動に参加させていただきたく思います。よろしくお願いいたします。

ある日の活動記録より

○子ども関係の活動を行うNPOとして学校現場に出かけることも多く、ユースリーダー間で共有すべきこともたくさんあることが分かった。

○人を支える重要さと難しさを肌で感じ、自身の成長になりました。また、定例会などで興味深い他団体の活動や学生達はとても魅力的でした。サポートセンターに興味を持っていただく良い場にもなったと思います。（インターン生　松井　彩）

○一つのイベント準備の段階で、様々な役割があり、打ち合わせなども細心な注意を払いながらの進め方がわかった。

○たくさんの学生が様々なNPOの活動に真剣に向き合い、様々な人と出会い、様々な人生観に触れ、感銘を受ける姿を肌で感じれるほど近くでみることがでたことは僕にとってもかけがえのないものとなった。（インターン生　森迫　恒平）

受入担当者からのメッセージ

松井さん、森迫君、長期にわたりありがとうございました。

社会人になれば、たいへんなことがたくさんあると思いますが、一つひとつの仕事、一つひとつの出会いに真心を込めてやっていってください。その積み重ねが大切だと思います。

特定非営利活動法人　横須賀創造空間

活動内容

「三浦半島へ人を呼ぶ」「三浦半島の魅力を発信する」「地域の交流を促す」をテーマにして、将来に向けて人口減が進んでいる横須賀・三浦半島地域の活性化を目指し、積極的な人材交流や魅力の発信事業などを行っています。

団体情報

主な活動エリア：横須賀市

TEL：046-897-5035

FAX：046-897-5035

URL：http://www.yokosuka-souzou.jp

受入担当者名：江口　健介

インターン生　高橋　明日香さん（大学 3 年生）

Q1.

同じインターン生の松葉君と共に、横須賀を知りたいという気持ちから「横須賀市民が勧めるお店は、私たちも市外の人にお勧め出来るか？」を目的に、横須賀グルメマップを作成しました。メンバーの方に協力していただき、市内のお店の人に取材し、お店を出す経緯や横須賀への思いなどを聞きました。団体が事業として運営するコアワーキングスペースのヨコスカテラスの運営の手伝いや、ヨコスカテラスでのイベントの参加等、理事会や Rg トーク等にも参加し、多くのメンバーの方と交流できました。

Q2.

横須賀グルメマップ作成にあたり、メンバーの方の取材を同行させていただき、取材のノウハウを学んだ。また、取材した内容を発信する方法として WordPress を使っての HP づくりの仕方もメンバーの方に教えていただきました。

グルメマップづくり等の活動を通して、幅広い年代の方と話すことができ、その人の生き方や活動に対する想いなどを聞くことができました。色々な方と話すことで、人生は色々であり、企業に就職することだけが道ではなく色々な道があると学びました。

Q3.

取材を通して、「生まれ育った横須賀を誇りに思う」とよく耳にしました。地元をよくしたいという気持ちから活動している人達を見て、自分の地元に対する見方が変わりました。今は地元を離れたい気持ちが強いですが、将来は地元に戻る事も頭の隅に入れておきます。又、幅広い世代の人と交流でき、人生経験や世間話など、今後「あの時あの人が言っていた事はこれだな…。」と思う時が来る気がします。大学だけの狭い社会で生きていた私ですが、このインターンを通してとても視野が広がりました。

Q4.

今回のインターン活動では、自分のやりたいことを具体化し、自分が行うことに対してどのような影響を周りに与えるのか、また、そのことを達成するためにはどのように計画を立てればよいのか、これらを考える機会がとても多くありました。この機会から、自分は何がしたいのか、どうすればよいのかを常にこれから思慮深く考えていこうと思います。

また、これから就職活動にむけ、今回の経験を糧に「人生何があるかわからない」を教訓に頑張っていこうと思います。

Q5.

正直、インターン当初は法人化されて間もなく、受け入れ態勢が整っていない所に飛び込み不安もありました。しかし、江口さんや沢山のメンバーにお世話になり、お互い手探りの中この活動を成し遂げられた事を本当に誇りに思います。歴史がまだ浅い団体だからこそ、枠にはまらず自由で勢いがあり、理想をまさに創造する人達が沢山集まっています。活動中はそんな人達と関わる事でいつも刺激を受けいました。この半年間、団体の成長や変化を間近で見れ、とても貴重な体験をさせて頂いたと思っています。

Q1: インターンの期間中、どのような活動を行いましたか？ Q2：インターンの活動を通じ、気づいたことや学んだことは何ですか？ Q3：インターンの活動を通じ、自分の中でどのような変化がありましたか？ Q4: インターンの活動で得たことを、この先どのように活かしたいですか？ Q5：受入団体へのメッセージをお願いします。

インターン生　松葉　健太朗さん（大学３年生）

Q1.

横須賀の町を知る事から始めようということで、グルメマップが中心でした。また、横須賀テラスのイベントに参加させていただいたり、企画も手伝うような形で携わる事ができました。インターンとしての活動を自分たちで作成したブログにアップしたり、ブログ作成にあたっては団体の方のお力を沢山借りる事となり、団体内でも沢山の人とコミュニケーションが取れたと思います。また、グルメマップの作成過程で、町の歴史や人々の思いなどを感じる事ができ、とても貴重な経験ができました。

Q2.

知らない世界が沢山ある事を知りました。初めてNPOに携わり、最初は何をしていいのか全くわからない状態でした。実際やってみるとやりたい事に対する強い意志がとても大事だと感じました。地域に求められている事を率先してやる事も大事ですが、特に横須賀創造空間では自分のやりたい事が地域の為になるなら何でもいい！というスタンスだった気がします。周りの方が生き生きとした空間を作ってくださり、その中でとても充実した活動でき、地域にはこの様な人達が必要なんだろうなと感じました。

Q3.

自分を見つめなおすきっかけとなりました。インターン生には年上もいれば最年少で高校１年生までいました。大学生に混ざり必死にプレゼンを行う高校生の姿に、とても刺激を受けました。高校生で自分たちと同じ事に挑んでいる彼を尊敬しますし、自分ももっと頑張らねばと感じました。様々な年齢の方が参加しており、コミュニケーションがとれるのも、このインターンシップの大きな魅力だと思います。私自身不安もありつつ申し込みましたが、何事も恐れずに踏み込んでみる事も大事だと感じました。

Q4.

人のつながりがとても大切だということを強く感じました。市民活動の楽しさや必要性を強く感じ、これからは行政の立場から市民活動を支えていきたいという想いも固まりました。社会人になってからもこのような場でたくさんの市民と出会い、NPO法人などに関する知識をさらに深めて社会に貢献していきたいです

Q5.

半年間、大変お世話になりました。正直このインターンシップが無かったらこれから先もずっと横須賀には縁のないままの生活だったと思います。私が初めてヨコスカテラスに行った時には空っぽの空間で正直とても不安でした。それが刻々と進化していく過程を共にできてとても充実した時間を過ごせたと思います。たくさんの方と出会えて、色々なお話を聞けたことは私にとってとても刺激になりました。インターン１期生として何かできることがあればできる限り駆けつけます！ありがとうございました。

受入担当者からのメッセージ

団体としても初めてのインターンの受け入れだったことで、受入側として一緒に学ばせてもらった部分がとても多かったです。今回は結果的に遠いところからインターンに通ってもらう形になりましたが、そんな中でもメール等で効果的に進めることができました。

内容に関して、よその地域から若い人が来てくれたことに対してNPOのメンバーが予想以上に大きな刺激を受けた一方で、インターンの二人にとっても横須賀という一つの地域に根付いて生活するたくさんの大人たちに出会えたこともまた価値あることだと思います。

インターン期間中に出会った縁をぜひ大切に、これからも横須賀を故郷の一つとして身近に感じてもらうと嬉しいです。

チャリティーサンタ湘南支部

活動内容

12 月 24 日に応募があったご家庭に「サンタクロース」として訪問し、子ども達へ「夢」と「笑顔」を届けます。その時に頂いたチャリティー金で世界中の子ども達を笑顔にするための支援を行っています。

団体情報

主な活動エリア：茅ヶ崎市・藤沢市

TEL：090-8877-5961

FAX：無し

URL：http://www.charity-santa.com/

受入担当者名：城田　正樹

インターン生　秋友　亮輔さん（大学 1 年生）

Q1.

4 月から 8 月頃は、公園（茅ヶ崎が主）で子供たちと遊ぶイベントに参加したり、毎月の団体定例会･MTG に参加していました。新しいスタッフと仲良くなる為のピクニックや一緒にご飯を食べるイベントにも参加していました。9 月以降は 12 月 24 日のイベントに向かって担当ごとに活動し、11 月以降は説明会やサンタクロースの講習会（団体 PR、当日の PR 等）を毎週行い、参加しました。団体の活動とは別に、学生団体のメンバーさんとボランティアの意識調査アンケートを作成しました。

Q2.

インターンシップに参加するまでにも、チャリティーサンタ湘南支部のイベントや MTG には参加していましたが、あまり団体の全貌を知ることが出来ていませんでした。活動時間数にノルマがあるため、積極的に活動に参加しようという気持ちが強まりました。そのため、団体内の事をつかむのにもあまり時間がかからなかった印象です。すべての活動を報告書にまとめることで、自分のこれまでの動きをチェックしつつ新たな活動をすることが出来たと思います。

Q3.

インターンシップ参加前と参加後では全体の認知度（自分の中で、そして活動内容の）に大きく差があるのは当然ですが、自分の活動をしつつ時々別の団体の学生と話して交流することが出来たので、気持ちを新鮮に保つことが可能だったなと思います。

もっと学生とボランティアについて交流したいという思いが強くなりましたが、インターンの構成上仕方のない事かもしれませんが、月一回の MTG に他の予定が重なると、次の学生との交流まで大きく日が空いてしまうのが難点だと思いました。

Q4.

インターンシップの活動から、もっと学生と交流したい気持ちが強くなったので、活動内でも既に動きは始めていましたが、大学毎にあるボランティア団体と交流をしていきたいと思っています。学生のフットワークの軽さ、若いながらも何かに熱い思いを向けて心意気を、ある種、師としても受け入れつつ、互いのイベントの交流、互いの団体の PR を兼ねた交流等を共有していき、結果それぞれの地域に活気を増やす足がかりとなれば良いなと考えています。

Q5.

一年間、沢山のイベントに参加させて頂き、有難うございました。子どもに目を向けたボランティアに初めて関わり、ただただ新鮮でした。単純な様で奥が深い子どもの事を理解するには一年や二年では足りないと思い、複雑ながらも挑戦心で満たされています。これからも活動に関わらせて頂きたいです。新たに自分の目標とする事、活動したい事、自分の出していきたい気持ちや考えを持って活動に参加し、団体に有意義なものをもたらす事ができたらと思います。一年間有難うございました。これからも宜しくお願いします。

Q1: インターンの期間中、どのような活動を行いましたか？ Q2：インターンの活動を通じ、気づいたことや学んだことは何ですか？ Q3：インターンの活動を通じ、自分の中でどのような変化がありましたか？ Q4: インターンの活動で得たことを、この先どのように活かしたいですか？ Q5：受入団体へのメッセージをお願いします。

インターン生　本間　和樹さん（大学３年生）

Q1.

他支部との Skype を通して、近況報告や相談に乗ってもらったりした。説明会・講習会の企画運営で、実際にプレゼンをした。MTG の司会進行で、メンバーの中心となり会議を進行した。

支部のメンバーで足りていないタスクの補完作業で、少しでもメンバーが働きやすい環境づくりをした。各担当から、現状報告を聞き出した。

Q2.

チャリティーサンタに関わってくれた人に対しての信頼関係の大切さや、ボランティアだけれども資金の大切さを気づいた。また、人に任せることで自分だけでなく、自分が任せた人も成長できることも学んだ。加えて、自分ももちろんチャリティーサンタを多くの方々に支えられた。さらには、チャリティーサンタの新年会の時にサプライズをされたのが嬉しかった。

Q3.

サプライズされたのが嬉しくて、誰かをサプライズをして喜ばせたいと思った。

今年のイブは、サポートサンタをやらせて頂いて時に、親御さんからとても感謝されたので、自分も些細なことでも感謝しようと思った。

自分だけでなく誰かと成長できた嬉しさを感じることができた。

Q4.

このインターンで特に大きく得たことは、誰かと成長できた嬉しさを、社会人になってからも成長できた嬉しさを感じたい。

初めて、サプライズされたこともあり、この経験を誰かに味わってもらい多くの人を喜ばせたい。

重複する部分であるが、些細なことでも感謝することを心がけるようになった。

Q5.

チャリティーサンタ湘南支部の皆様へ。インターンシップを受け入れて下さってありがとうございます。チャリティーサンタ湘南でインターンシップを出来たことは、とても貴重な経験になりましたし、切磋琢磨しながらチャリティーサンタ湘南支部を盛り上げることができたと思っています。また､チャリティーサンタ湘南支部の皆様と素敵なクリスマスイブを過ごせたのもご縁だと思っています。今年も皆様と一緒にクリスマスイブを過ごせたらと思います。今後ともよろしくお願い致します。

ある日の活動記録より

○子どもと遊ぶプログラムでは、子どもに慣れてきたことが、相手に伝わったのか子どもから気軽に話しかけてくれるようになった。

○打ち合わせ会場の手配をするにあたり、事前調査をしっかりやるとスムーズに予約できることがわかった。

（インターン生　秋友　亮輔）

○支部の中でのリーダー役を任されたことで、他支部との会議やイブまでの動きの把握など全体が見えるようになった。

○サンタ講習会で、配布資料の準備、説明の仕方の工夫など会を重ねるごとに上手くなった。（インターン生　本間　和樹）

受入担当者からのメッセージ

インターン生として、団体を一緒に盛り上げてくれてありがとう。インターンでの経験が２人にとって、自信がつく経験になっていたら素敵だなと思っています。インターンで学んだことは今後の人生にもきっと役に立つと思うから、改めて自分がインターンで何を学んだかを考えることがとても大切だと思うよ。人生一度しかないから、自分がやりたいことをやろう！迷ってるなら、まず、動くこと。動いたら必ず結果がついてくるからね。

藤沢市民まつり実行委員会

活動内容

今年で 41 回目となる藤沢市で開催されている最も大きなイベント「藤沢市民まつり」の企画・運営をする団体です。商工会議所、商店街連合会、藤沢市、NPO、市内 4 大学の学生と、様々なメンバーが主体となり活動をしています。

団体情報

主な活動エリア：藤沢市

TEL：080-5957-0677

FAX：無し

URL：http://komorebigarden-akihadai41.jimdo.com/

受入担当者名：桜井　光

インターン生　小山　優子さん（大学 3 年生）

Q1.

9 月 27・28 日に開催された " 第 41 回藤沢市民まつり " 秋葉台会場・遊行寺会場 " の企画・運営に携わり、主に、音楽ステージ企画・運営、ECO に関する PR 企画（ご当地キャラ ECO 推進隊）の企画・運営を行った。具体的には、自分の考えを企画として形にすること。また、当日に向けて、出演者との連絡調整・資料作成・出演者 PR 動画作成（広報用）・説明会の開催・スケジュール管理・他のイベントの視察等。当日のステージ補佐など、様々な活動を行った。

Q2.

インターンを通して、様々な人が街を盛り上げるために頑張っているということを知ることができた。また、今まで見過ごしてきていたが、藤沢で様々な地域での活動が行われていることに気づくことができた。学んだこととしては、どちらかといえば、自分の思いを表現するのが苦手なほうであったのだが、企画運営などを通して、自分の考えを積極的に伝えることの大切さを学んだ。他にも作業を通して、事務的なスキルを向上させることもできた。

Q3.

この活動を通して地域と関わることにより関心を持てる様になった。以前は自分の住む街のことをあまり知ろうとしなかったが、最近は街のイベント等に興味をもち、活動に参加する機会も増えてきた。そういった地域に関わる活動を楽しいと思えるようになったのも、自分の中で変化したことである。また、団体の一員として活動する中で、作業の質や効率を、少し底上げできたのではないかと感じる。多くの社会人の方と関わる機会も多く、社会で働くことについて考えたり、目をむけることも多くなった。

Q4.

この活動を通して得た、地域活動に対する関心を今後も持続させていきたいと思う。具体的には、街の活動に今後も積極的に参加したり、自分に出来ることを模索していきたい。また、活動を通して学んだ " いかに自分の思いを伝えるか " を今後の生活の中でも考え実践してゆきたい。今回のインターンを通して、繋がれた仲間や地域の方々もたくさんいるので、そういった繋がりも大事にしていきたい。そして、またいつか自分でイベントの企画などに関わり、地域を盛り上げる活動に参加したいと思っている。

Q5.

受け入れて下さり本当にありがとうございます。多くの事を体験し、学べました。壁にぶつかる度に的確なアドバイスを下さり、おかげで乗り越えられました。また、私の立案した企画を、全力でサポートしていただいたおかげで無事に形となりました。当日は、来場者の方が楽しんでいる様子を見ながら、自分の思いを表現する嬉しさと達成感を味わい、本当に貴重な半年間となりました。地域活動に関わる楽しさを知れたのも私にとって大きいです。半年間で学んだ事を今後生かしていきたいです。半年間有難うございました。

Q1: インターンの期間中、どのような活動を行いましたか？ Q2：インターンの活動を通じ、気づいたことや学んだことは何ですか？ Q3：インターンの活動を通じ、自分の中でどのような変化がありましたか？ Q4: インターンの活動で得たことを、この先どのように活かしたいですか？ Q5：受入団体へのメッセージをお願いします。

インターン生　須貝　里美さん（大学 3 年生）

Q1.

藤沢市民まつり秋葉台会場の出店者管理を行いました。会場の下見（レイアウトの測定）、出店団体の選出・申請（40 団体程度とやり取り）、また出店団体へのメールや電話による問い合わせ作業（随時）を行いました。今までにも学内の活動などで地域の方々とやり取りすることはありましたが、電話やメール・書面などといった手段を使って、コミュニケーションをとることはあまりなく、どちらかといえば苦手な作業でしたが、あえてそこに多くの時間を充てることを担当の方と話して決めました。

Q2.

お店・団体の代表者と直接やり取りを行うことでメール・電話をする際のマナーを学びました。また、複数の書類を作成していくにあたってパソコンの技術と共に時間管理方法を学びました。最初予定通りに作業が進まず、上司への報告が事後報告になってしまった際に“ほうれんそう”の大切さを学びました。自分自身の作業が遅れていても、しっかりと相談や報告をすることで、周囲のサポートを受けることができ、全体のスケジュールへの影響も少ない、など実感を得ながら学ぶことができました。

Q3.

イベントなどで臨機応変に動くことや、以前のインターン先で学んだホスピタリティ・その場その場で適切な対応をとること、には自信がありました。その反面、細かい作業を時間通りに、といったことは苦手意識がありました。

今回、時間管理の大切さを学んだことで、自分の苦手としていた「計画性」を少し克服することができ、“ほうれんそう”を徹底することが大切だと気づいたことで、普段の活動に活かせる学びを得ることができました。

Q4.

就職活動、それに限らず今後自分が進んで行きたい道に向けて、今回のインターンで学んだ「計画性」と、より自信をつけることの出来た「行動性」を活かして、取り組見たいと思います。

また成果発表会に向けた資料作成や動画作成で得た経験を活かして、自己表現していきたいです。

Q5.

短い間でしたが、お世話になりました。今回学んだことを活かし日々精進していきたいと存じます。ありがとうございました。

ある日の活動記録より

〇市民まつり当日、反省点はあるけれど、とりあえず自分の企画が形になったことが本当に嬉しかった。

〇作業内容をしっかり確認して、予定時間内にこなすことができた。　（インターン生　小山　優子）

〇ひとつひとつ丁寧に作業できた。誰のために、何のための作業かを考えながら行うことを学んだ。

〇忙しい中でも確実な作業ができるようになりたい。　（インターン生　須貝　里美）

受入担当者からのメッセージ

市民まつり、というその土地特有のお祭りの企画運営、出身地が藤沢ではないこともあり、慣れない事も多かったのではないでしょうか。

そんな中、普段の接点のない 20 組に及ぶ藤沢のアーティストやレディオ湘南などのステージ関係者、また 15 以上のご当地キャラ、それを今までの経験で力をつけた企画力やコミュニケーション力を発揮しまとめあげた小山さん、持ち前の行動力や粘り強さを発揮し、丁寧に 40 店近くの出店者に連絡をし、当日もトラブルなく進行してくれた須貝さん（特に遊行寺でのナマーズ先生は子ども達に大人気でした）、2 人の力でとても楽しいお祭りになりました。

どうもありがとう！メンバー一同、2 人の頑張りに感謝しています。また時間ができたら遊びにきてくださいね。

活動報告　特定非営利活動法人　市民農園を拡げる会

活動内容

地域課題でもある遊休農地を、市民の健康福祉の為に有効活用する２つの事業を通じて地域貢献を行っています。

①市民農園 (99 人利用中) ②福祉農園 (障がい者、認知症高齢者などへの園芸療法目的の野菜農園)

団体情報

主な活動エリア：藤沢市

TEL：0466-35-2984

FAX：0466-35-2984

URL：http://shimin-nouen.jimdo.com/

受入担当者名：岩田　和久

インターン生　福田　友裕さん (大学 3 年生)

Q1.

遊休農地を園芸療法目的に活用している福祉農園での活動。

1）野菜栽培の農作業（草取り、里芋収穫、苗の植え付けなど）

2）来園する障がい者たちの収穫作業お手伝い

3）HP のリニューアル作業

Q2.

会の実働メンバーである高齢者との共同作業に、最初は戸惑いもありましたが、一員として接してくれ結構楽しく過ごせました。また、HP のリニューアルには貢献できたと思います。

Q3.

厳しい自然環境にもかかわらず、ボランティア高齢者の手際よい農作業を見て、その馬力に圧倒されました。こういった地域貢献もありかと思い、良い勉強になりました。またその厳しさと情熱に対して見習わなければと思いました。

Q4.

障がい者の収穫作業を手伝ってもらう機会が 3 回ありましたが、障がい者の 1 人が何度も「福田君」と呼んでくれ、自分との再会を心待ちにしてくれていたことが分かり、感動しました。

ある日の活動記録から

○夏場は草取りが続く。草との戦い。

○畑の周りの草取り中央通路の整備など体力勝負の作業が多い。

○収穫体験の前段階での、サツマイモのつる返しや里芋掘りの準備など。　（インターン生　福田　友裕）

●最初は農作業に戸惑いも見られたが、真面目に取り組んでくれている。

● HP リニューアル作業では、PC 操作に実力を発揮してくれて大助かりです。　（受入担当　岩田　和久）

受入担当者からのメッセージ

世の中には色んな社会貢献をしている市民活動団体があることを知って貰い将来「一隅を照らす」存在になることを期待しています。

Q1: インターンの期間中、どのような活動を行いましたか？ Q2：インターンの活動を通じ、気づいたことや学んだことは何ですか？ Q3：インターンの活動を通じ、自分の中でどのような変化がありましたか？ Q4: インターンの活動中で、印象に残ったことは何ですか？

特定非営利活動法人　NPO サポートちがさき

活動内容

未来を拓く人や組織が輝きを増すために、ＮＰＯが公益の担い手となり、ＮＰＯへの信頼と共感の輪を広げていきます。また、人と人、人とモノ、人とコトが有機的に繋がり「新しい価値や化学反応が生まれる」場をつくります。

団体情報

主な活動エリア：茅ヶ崎市

TEL：080-6255-7546

FAX：0467-88-7546

URL：http://sapochiga-mirai.com/

受入担当者名：堀江　貞子

インターン生　杉本　美晴さん（大学 2 年生）

Q1.

自主事業の「企業と NPO のマッチングプロジェクト」の一つ、C-square（地域の為のコミュニティスペース）で行われる NPO 法人・市民団体主催のイベントで準備や片付けを行い、イベント後にブログや facebook にて情報発信を行った。それにおける事務作業、議事録の作成。また、自主イベント「企業ＸＮＰＯＸ大学Ｘ行政の交流サロン」にて団体紹介資料を制作し、当日は総合司会を務めた。その後 C-square にて「東北物産市＆編んだもんだらワークショップ」を企画し、運営。

Q2.

NPO 法人にインターンする事で、今まで市政がやっていると思っていた事は NPO 法人や市民活動が行っていると気づき（自転車の左側走行促進･母親の子育て支援等）、これらの活動を知ったことで茅ヶ崎市と NPO が濃密に関わり、協力しあいながら活動している事を学べた。NPO が地域で活動する意義は、地域の方々に茅ヶ崎の歴史・文化を伝え、市政だけでは出来ないより良い有意義な生活を茅ヶ崎で送ることが出来るようになることだと考え、NPO の存在価値に気付くことが出来た。

Q3.

NPO 法人や市民団体と関わることが出来たことで、様々なことに気づき学び、地元から離れて様々な活動をしていた私としては地元をなおざりにしていたことに罪悪感を覚えた。地元のことを何も考えずに過ごしていた生活から、日々地元に密着して活動していくようになったことで、茅ヶ崎の町をもっと面白く、楽しい街にしたい。そうするためにはもっと若者のアイデアや知恵が必要なのかとおもい、地元に何か私の力を還元して街を元気にできるような活動をしたいと心境が変化した。

Q4.

今後インターンを行ったことで感じた、茅ヶ崎を元気にしたいという気持ちを実現するために、湘南地域で行われる何かしらのプロジェクトにまた参加したいと思う。そこで、これまでの活動を通じて得ることが出来た NPO 法人や市民活動団体の方々とのつながりを生かし、様々な団体さんとコラボすることで自分の活動できる幅を広げていきたいとおもう。また、活動の中で感じた NPO 法人や市民活動団体の抱える課題を解消できるように提案していけるような活動をしたい。

Q5.

地元に特化して沢山の NPO 法人と関われる活動が出来たのは初めてでした。学生が私一人という環境が私にとって刺激的で、社会勉強になりました。益永事務局長と堀江さんが語る、茅ヶ崎の中心で活動する団体だからこそ感じる NPO 法人や市民活動団体の運営や団体への関わり方の難しさには刺激を受け、私自身の課題にもなりました。とても視野の広がった半年間でした、ありがとうございました。

受入担当者からのメッセージ

社会への発信力を身につけたいという目標に軸足を置き、NPO の情報収集・発信を集中的に担って頂きました。抜群のセンスと感のよさでＮＰＯの価値を発信しましたね。多くの NPO と接し、活動を知る学びの場となった事でしょう。また自団体主催のイベントではＮＰＯの一員として役割を果たし、コーディネートの意義を実践しました。

Q1: インターンの期間中、どのような活動を行いましたか？ Q2：インターンの活動を通じ、気づいたことや学んだことは何ですか？ Q3：インターンの活動を通じ、自分の中でどのような変化がありましたか？ Q4: インターンの活動で得たことを、この先どのように活かしたいですか？ Q5：受入団体へのメッセージをお願いします。

特定非営利活動法人　ハーモニーインターナショナル

活動内容

ボディ、マインド、スピリットのバランスを考えながらこれからの国際人に必要な英語・コミュニケーションスキルと多文化意識を身につけることを大切にするオリジナルプログラムを提供している英語の多文化スクールです。

団体情報

主な活動エリア：藤沢市

TEL：0466-47-9986

FAX：0466-47-2769

URL：http://www.harmonyjp.com/

受入担当者名：松本　みどり・武田　牧子

インターン生　中間　千尋さん（大学４年生）

Q1.

主に子どもの工作準備とデイケアの子どものお世話のお手伝いをしておりました。幼稚園には２歳から６歳までの子どもが通っています。彼らが工作をする時に、まだ難しい部分を先生や私を含めたボランティアが準備していました。幼稚園が終わり、親御さんがお迎えに来るまでデイケアで子どもを預かっています。その子どもたちと英語でお話したり、遊んだりしていました。また、冬季期間のウィンタースクールにアシスタントとして関わり、イベントにもスタッフとして参加させていただきました。

Q2.

三点あります。子どもが一人でできる事は予想以上に多いという事です。何事も本人に選んでもらう方針をとっており、子どもたちは自発的、積極的に自分で考え行動する印象が強かったです。二点目は親御さんと話す機会が予想以上に多かった事です。親御さんも含めてコミュニケーションをとるのが大事という事に気づきました。最後は、英語で保育するのは難しいという事です。日常の中でとっさの一言が出てこなかったり、間違った表現を使ってはいけないというプレッシャーを感じたりしました。

Q3.

一番大きな変化は、「幼稚園の先生になりたいかも」と確かではなかった気持ちが、「将来幼稚園の先生になる」と確信的になった事です。活動を通じて幼稚園を運営する側から見れ、先生方は想像以上の仕事量をこなしている事を知れました。日常の準備に加えてイベント準備等、常に準備する事が舞い込み、忙しくない時期はないのでは、と思う程です。ただ、忙しい中でも子ども達の笑顔が見られれば、先生たちも癒されている様でした。「自分の頑張りが子どもの笑顔に繋がる」のは、素敵だなと思いました。

Q4.

将来先生という立場になった時に、先に挙げた気づいた点は活かせるのではないかと考えています。一点目は、子どもができることに関してはやらせてあげると、一歩引いた立場で子どもたちを見ることができると思います。二点目は家族も含めたコミュニケーションも大事にしていこうと考えられる様になります。三点目は、英語で保育する時には、自分がなるべく間違いのない英語を話すことが大切だと実感しました。将来そうした状況にあったら、絶対に英語の勉強を怠らずに続けていこうと思います。

Q5.

インターン生として様々なことに関われて、貴重な経験となりました。幼児教育や二言語教育に関心があったので、実際にハーモニーインターナショナルという教育の現場でインターンができてうれしく思っています。また、ウィンタースクールではアシスタントとして子どもたちと関わることができて、お仕事に対して抽象的に抱いていたイメージが具体的になりました。この経験を活かして、また次の行動に移していきたいと思います。インターン生として受け入れていただき本当にありがとうございました。

受入担当者からのメッセージ

千尋さま、短い間でしたが、もうHIファミリーです。寂しくなりますが、これから新しい旅先で持っているスキルとアイディアで沢山の方をサポートしていくと思います。一緒にとても深い時間を過ごせました。何時でも声をかけて下さい。

Good luck and thank you so much, we will miss you loads!

Q1: インターンの期間中、どのような活動を行いましたか？ Q2：インターンの活動を通じ、気づいたことや学んだことは何ですか？ Q3：インターンの活動を通じ、自分の中でどのような変化がありましたか？ Q4: インターンの活動で得たことを、この先どのように活かしたいですか？ Q5：受入団体へのメッセージをお願いします。

活動内容

「街の映画館」という姿を追いもとめ、後世に優れた文化の街を残していくため、下記事業を行う。

①上映会イベントの定期的な企画、運営

②芸術文化振興を目的とした事業

③その他、本会の目的を達成するために必要な活動

団体情報

主な活動エリア：藤沢市

TEL：080-6546-9432

FAX：無し

URL：http://cinekoya.com/

受入担当者名：竹中　翔子

インターン生　三上　尚美さん（大学１年生）

Q1.

私は毎第１・３週の金土、１日３回の上映の事前準備から当日の運営、夜の片づけまでを、スタッフの方と協力して行いました。また、配給会社とメールでやり取りをし、上映の見積もりを取る作業や、twitter などの SNS を通して、上映の宣伝を行いました。

新しいスタッフの方のための上映マニュアル、調理マニュアル、会場図を作成したり、お客様からの映画のリクエストをまとめるパソコン作業も行いました。

Q2.

今まで、映画館の仕組みを全く知らなかったので、上映は難しいことだと思っていましたが、意外と簡単な作業が多く、学生をやりながらでも両立できることに気付けたのは、私の研究（映画、街づくり）にも生かせると思います。

また、シネコヤの珍しい、くつろぎながら映画を見られる空間を訪れて、気に入った、と言ってくださる方が多いのに、リピーターが少ない現状に気付き、映画をみる環境に求められるものについて、考察していきたいと考えました。

Q3.

数十社の配給会社に連絡を取ってみたのですが、返事をもらえないことも多くあり、代表・竹中さんの話からも、大手配給会社は、大きな利益を見込めないミニシアターを相手にしてくれないところも多い、という悲しい現実を知りました。でも、シネコンでやる作品と、ミニシアターでみたい作品は、映画ファンにとっては違うものです。私は、これまで興味のなかった映画上映に至るまでの仕組みを研究したいと考えました。これが今回のインターンにおける最大の変化です。

Q4.

次は、配給会社でインターンをしたいと思います。そして、今回のインターンの結果と合わせて、最終的には日本の配給会社とミニシアターの間の関係づくりに貢献できたらと思います。私は映画が大好きなので、この取り組みで映画界が盛り上がることを期待します。また、シネコヤのスタッフとしても活躍したいです。

Q5.

長い間、大変お世話になりました。毎回、手作りの美味しいまかない飯を用意して下さったこと、あたたかくて、とても嬉しかったです。最初は教えて頂くことばかりでしたが、後半は慣れてきて、少しはお役に立てたかな、と思います。今後もよろしくお願いします。

ある日の活動記録より

○定期イベントの会場設営を覚えた。映画をみるための空間作りについて考える機会になりよかった。　（インターン生　三上　尚美）

●早い段階で団体スタッフの一員として自ら動いてくれました。データ作成能力が高くおどろかされました。今まで手がつかなかったことにとりかかれて、助かりました。　（受入担当　竹中　翔子）

受入担当者からのメッセージ

本当によく気がつき、よく働き、熱心に関わっていただいたと思います。インターン終了後も引き続き関わってもらっています。シネコヤでの経験が、彼女の将来になにかしら繋がるといいなと思います。今では主力メンバーとして、とても頼りにしています。これからも、お互いに色々と学び合っていきたいです。

Q1: インターンの期間中、どのような活動を行いましたか？ Q2：インターンの活動を通じ、気づいたことや学んだことは何ですか？ Q3：インターンの活動を通じ、自分の中でどのような変化がありましたか？ Q4: インターンの活動で得たことを、この先どのように活かしたいですか？ Q5：受入団体へのメッセージをお願いします。

辻堂ライフセービングクラブ

活動内容

辻堂海水浴場の監視活動や子どもたちへの海に関する教育を通して、海辺の事故防止に努める。

団体情報

主な活動エリア：藤沢市

TEL：090-8032-4285

FAX：無し

URL：http://www.tsujido-lc.jp/

受入担当者名：原田　剛

インターン生　水澤　慶司さん（専門学校１年生）

Q1.

主に夏の海水浴期間をメインに、７～８月にかけて監視活動を行っていました。パトロールを初めとし、海辺の清掃や、市民の人たちとの交流や声かけなど、人々に少しでも楽しく思い出になって帰っていただけるようにサポートをしていました。 私はずっと陸上競技をしてきた人間なので、泳げたとしても、ライフセービングの知識や技術などこれっぽっちもありませんでした。しかし、この２ヶ月間で、たくさんの人に出会い、学び、挑戦することで、得られる経験や知識がありました。

Q2.

１にも少し書いてしまい、申し訳ないのですが、元々「ライフセービングってなに？」というところから始まったので、どんな経験も新鮮で大小問わずなにもかもが身になって学んだことでした。中でも、私はボードの楽しさや爽快感を１番に学ぶことができたと思います。 今でも、海に行っては練習をし、日々鍛錬を心がけています。

Q4.

これから、私はまだまだライフセービングを続けていきたいと思っています。もちろんこれから後輩がたくさん入ってくることも考えられます。なので、自分を高め続けるとともに、後輩たちに伝えられるものをしっかりと準備しておこうと思っています。

ある日の活動記録より

○朝のチェックがスムーズにこなせるようになった。少しずつ仕事をオボエテきたので、まだまだ頑張りたい。

○改めて先輩方がすごいと思った。（インターン生　水澤　慶司）

●お客さんが減った時期でも手を抜くことなく、新しいファーストエイドのやり方を学んだり、放送を工夫してくれている。

（受入担当　原田　剛）

Q3.

やはり、人を助けるということをメインに活動する以上、自分が人一倍の体力が必要となってきます。 必死に練習をしたところでそれが結果に結びつかないと意味がありません。そういったことを踏まえて私が一番学んだことは、「あきらめない心」ですね。ライフセービングだけではなく、日常にもすべてつながってくることを学ぶことができて、今まで以上に有意義で目標意識の高い生活を送れていますね。

Q5.

短い期間でしたが、濃厚な時間を送らせていただいてありがとうございました。辻堂ライフセービングクラブは特に、学生が限りなく少なく、社会人が多いので、他のクラブとは違ったことを違った視点でたくさん学ぶことができました。これはクラブの特徴なので大事にしていければなと心から思います。しかし、若年層が薄いのは、これからの未来の辻堂に不安を抱くことも考えられます。辻堂の魅力を広い範囲で発信して、より人が集まり、そして共にこれからも辻堂を盛り上げていきたいです！

受入担当者からのメッセージ

辻堂ライフセービングクラブで活動している時も大きく成長をしてくれたと実感していましたが、他の団体のインターン生と一緒に活動する中で、より多く学び、成長しているのを見て、とても嬉しく思っています。このインターンを通して学んだ事がこれからの人生に少しでも役立つ事があるといいな、と一担当者として願っております。これからの益々の活躍を期待しています。

Q1: インターンの期間中、どのような活動を行いましたか？ Q2：インターンの活動を通じ、気づいたことや学んだことは何ですか？ Q3：インターンの活動を通じ、自分の中でどのような変化がありましたか？ Q4: インターンの活動で得たことを、この先どのように活かしたいですか？ Q5：受入団体へのメッセージをお願いします。

インターンの活動を通じて育まれた学生間の横のつながりから２つの企画が生まれました。これらの企画誕生の背景には、受身でインターンの活動に取り組むのではなく、自主的に活動し経験と知識を蓄えていった学びの姿勢があるからこそだと思います。それぞれの企画の内容や学生の想いは下記にてご確認ください。

東北物産市＆編んだもんだらワークショップ

日時：2015 年 1 月 9 日（金）11 時～ 17 時
企画・運営：鳥海　花菜・中村　麻梨奈 (藤沢市市民活動推進連絡会）
運営・会場提供：杉本　美晴（NPO サポートちがさき）
チラシ作成：泉　美菜子（湘南遊映坐）
内容：仙台から講師の方をお招きし、楽しく編み物をしながら震災当時の状況や復興への取り組みを学ぶワークショップと同時に、東北物産市、展示コーナーも設けました。

企画成立の経緯

インターンの一環として行った宮城で復興に向け様々な課題に向き合い活動を続けている方々との出会いがありました。そのような活動を被災地から遠く離れた湘南でも発信したい。震災から３年半以上の月日が流れ、風化が進む中、復興や防災について考える場、話し合える場を作りたい。やるなら楽しいイベントにしたい！茅ヶ崎ラスカ内のスペースを会場にしていろんな人に寄ってもらおう！そんな思いから生まれたイベントです！

感想

自分たちで一からの企画・運営を行ったイベントでした。段取り八分という言葉の通り、当日までの準備に悪戦苦闘しました。しかしその中で多くの気づきや学びがあり、良い経験になったと感じています。当日は多くのお客様に足を運んでいただき、震災について語りながら楽しく編み物、お買い物をされている方々を見て、湘南と被災地を繋げることが出来たという満足感を得られました。この企画を実施できて本当によかったです。

福島フィールドワーク

日時：2015 年 2 月 9 日（月）～ 10 日（火）
企画・運営：鳥海　花菜（藤沢市市民活動推進連絡会）
門倉　啓介（湘南遊映坐）他３名
内容：インターン生の鳥海・門倉の友人を誘い、福島県南相馬市を訪問しました。市内の視察を行ったり、住民の方に語り部をしていただきました。

企画成立の経緯

10 月のインターン定例会で、何人かの学生が東北の被災地へ行った経験がある、ということがわかりました。そのことをきっかけに「インターン生で東北に行きたい」という話になり、複数人で企画しました。約３ヶ月、ミーティングを重ね、場所や内容を決めていきました。インターン生だけでなく、周囲の友人も誘い実施することになり、計５人の学生が集まり行いました。

感想

それぞれのインターンの活動を活かし、発展させ生まれたこの企画。１日という短い時間でしたが自分の目で見て、自分の耳で現地の方から話を聞くことで、多くの学びを得ることが出来、参加メンバー全員が行って良かったと心から感じられるフィールドワークとなりました。ワカモノである自分達の復興に対する姿勢を改めて考える良い経験になったと思います。

活動訪問

団体名	インターン生氏名	訪問日	内容
認定特定非営利活動法人 地球市民 ACT かながわ /TPAK	大場　将希 村上　紘寿美	2014 年 10 月 25 日 (土)	地域中学校へのブース出展
認定特定非営利活動法人 藤沢市市民活動推進連絡会	鳥海　花菜 中村　麻梨奈	2014 年 8 月 23 日 (土) 2014 年 9 月 28 日 (日) 2015 年 1 月 9 日 (金)	辻堂ファイト祭り出店 藤沢市民まつり出店 東北復興応援コラボ企画
NPO 法人 湘南遊映坐	門倉　啓介 泉　美菜子	2014 年 11 月 30 日 (日) 2014 年 12 月 6 日 (土)	きたかまくら遊映坐当日 えのしま遊映坐当日
特定非営利活動法人 湘南 DV サポートセンター	松井　彩 森迫　恒平	2014 年 10 月 19 日 (日) 2014 年 12 月 13 日 (土)	定例打ち合わせ いじめ防止スクールバディサミット
特定非営利活動法人 横須賀創造空間	高橋　明日香 松葉　健太朗	2014 年 9 月 22 日 (月)	今後に向けての打ち合わせ
チャリティーサンタ湘南支部	秋友　亮輔 本間　和樹	2014 年 12 月 14 日 (日)	クリスマスに向けての打ち合わせ
藤沢市民まつり実行委員会	小山　優子 須貝　里美	2014 年 9 月 27 日 (土) 2014 年 9 月 28 日 (日)	藤沢市民まつり当日
特定非営利活動法人 市民農園を拡げる会	福田　友裕	2014 年 10 月 1 日 (水) 2014 年 11 月 1 日 (土)	福祉農園収穫イベント HP 作成打ち合わせ
特定非営利活動法人 ＮＰＯサポートちがさき	杉本　美晴	2014 年 11 月 6 日 (木) 2015 年 1 月 9 日 (金)	茅ヶ崎市地域・学校・企業連携事業 東北復興応援コラボ企画
特定非営利活動法人 ハーモニーインターナショナル (年度途中団体名変更 旧名 Gateway International Center)	中間　千尋	2014 年 12 月 22 日 (月)	イベント準備
シネコヤ	三上　尚美	2014 年 11 月 24 日 (月)	隠れ家シネマ当日設営運営
辻堂ライフセービングクラブ	水澤　慶司	2014 年 8 月 31 日 (日) 2014 年 12 月 14 日（日）	辻堂海岸監視活動 次年度に向けた打ち合わせ
NPO 法人　辻堂の民 (年度途中で活動辞退)	途中辞退	2014 年 8 月 23 日 (土)	辻堂ファイト祭り当日

受入団体には活動開始時より、事務局の活動現場訪問についてのスケジュール調整をお願いしておりました。日々の忙しい活動の様子をはじめとし、各団体のイベントやその準備など多種多様な「現場の顔」をおじゃまにならぬよう、半年間かけて各地で見てまいりました。定例会での学生の一面と、訪問時にはすっかり団体の一員となった様子を頼もしく感じると同時に、成長を見守っていただいた受入担当者の方々に感謝です。

各現場でインターン生が準備、進行、裏方と活き活きと動き回る様子は次ページにてご確認ください。

活動訪問の様子

左→右の順に、
地球市民 ACT かながわ /TPAK、
藤沢市市民活動推進連絡会、湘南遊映坐、湘南 DV サポートセンター、
横須賀創造空間、チャリティーサンタ湘南支部、藤沢市民まつり実行委員会、
市民農園を拡げる会、NPO サポートちがさき、ハーモニーインターナショナル、
シネコヤ、辻堂ライフセービングクラブ、辻堂の民

成果発表会

概要

日時 :2015 年 2 月 21 日 (土)

発表会：13 時 30 分～ 16 時

交流会：16 時 15 分～ 17 時 45 分

会場：藤沢商工会館ミナパーク 6 階　多目的ホール 3

参加者：63 名

（インターン生、受入団体、学校関係者、一般）

当日資料 (泉　美菜子さんデザイン)

成果発表会とは？

19 名のインターン生たちは 7 ヶ月の間、親でも学校の先生でもない、地域の大人たちとともに社会課題の解決に取り組んできました。団体での活動や定例会を通じて感じたこと、気づいたこと、見えてきたこと、今後どう活かしていくか、など長期のインターンならではの成果を「団体の紹介」というテーマで発表する目的で開催しました。

インターン生と受入団体が一堂に会する、互いにとって集大成の発表会です。

企画・運営

1 月 24 日の第 3 回インターン定例会より、インターン生が主体となって企画を始めました。最初の話し合いでは 2 人のインターン生を中心に「どんな感じの発表会になるかな」「なにが必要なんだろう」と発表会の全体について意見を出し合いました。そのあとに、写真や機材に詳しい人は記録係を、全体の管理はイベント運営経験のある人が、などそれぞれの得意なことやできることを考えながら役割を決めました。そのなかには、団体での活動の経験を活かせたインターン生もいました。

発表会 1 週間前の 2 月 15 日には会場となるミナパークへ下見に行き、当日の流れや動きのイメージをより具体的にしていきました。インターン生は発表の準備と並行しての企画にと、初めは戸惑っている様子でしたが、準備を進める過程で少しずつ自分たちの発表会という意識を持ち、主体的に取り組む姿がみられました。

発表会

開会時刻の 13 時 30 分、司会のインターン生 2 人の挨拶より発表会が始まりました。来賓紹介、趣旨説明の後にインターン生たちによる「団体の紹介」が始まりました。いつものインターン定例会とは違う雰囲気にインターン生たちはやや緊張ぎみの様子でした。

イベントに準備から関わって大変さとやりがいを感じた、多年代の人々の想いに触れられた、地元なのに知らないことがたくさんあった、など活動を通しての気づきとともに「私の団体はここがすごい！」と写真や動画を用いたスライドとともに、それぞれが自分の団体を自分の視点で、自分の言葉で紹介をしました。発表後に受入団体の方に感想をもらうと、インターン生たちは照れながらも嬉しそうな表情をしていました。

また、全員の発表後に「福島フィールドワーク」と題したコラボレーション企画の発表がありました。それぞれ別の団体で活動するインターン生たちの間でうまれたこの企画には、長期間の活動で得た横のつながりがみられました。

来賓の方々、本プログラムアドバイザーの古田氏からの講評に「団体の一員」という言葉がありました。インターン生一人ひとりが胸を張って発表する姿に、団体の一員へと成長したことが来場者全員に伝わる内容の発表となりました。

19 名のインターン生 (当日は 17 名) たちの 7 ヶ月間の成果を発表した集大成の、またこれからに向けたはじまりの発表会となりました。

交流会

発表会のあと、軽食を囲みながら来場者同士の交流会を開催しました。緊張が解けたインターン生たちはインターン定例会でみせるいつもの表情に戻り、交流会を楽しんでいました。インターン生と団体がともに活動する最後の日ということもあり、名残惜しそうに話をする姿もみられました。これまでの活動のこと、これからのこと、と話題は尽きないようでした。

そこにいた全員が互いに労をねぎらい、2014 年 7 月からのインターンシップの締め括りとなりました。

プログラム評価　アンケート結果（インターン生）

目的：プログラムへの評価及び、インターン生自身や地域・市民活動に対する考え方がいかに変化したかを知る。

回収率：94.7%

全体数 (N) ＝ 19

Q1. ワカモノ×NPOのインターンシッププログラムは満足出来ましたか？(平均：4.59点)

	とても満足	←	―	→	あまり満足していない
点数	5点	4点	3点	2点	1点
件数	11件	5件	1件	0件	0件

コメント抜粋

・定例会の司会を学生にやってもらっても面白くなるのかな、と思いました。

・既定の活動時間を達成するのに、なかなか大変であった。

・インターン先のつながりだけではなく、他団体との横のつながりもできた点に満足です。

Q2. インターンの活動は楽しかったですか？(平均：4.76点)

	とても楽しかった	←	―	→	あまり楽しくなかった
点数	5点	4点	3点	2点	1点
件数	14件	2件	1件	0件	0件

コメント抜粋

・非常に楽しかったですが、それと同じくらい苦戦した時がありました！

・仲間もでき、楽しかったです。

・たくさんの方が笑顔で迎え入れてくれたため、とても楽しかった。

・今までにない経験で、知らない世界が少しだけ知れて日々充実していた。

Q3.NPOへのインターン活動を通じて、考え方が変わり、視野は広がりましたか？(平均：4.63点)

	とても思う	←	―	→	あまり思わない
点数	5点	4点	3点	2点	1点
件数	10件	6件	0件	0件	0件

コメント抜粋

・今まで関心を持たなかった分野に関心をもつようになりました。これから、街づくりや震災復興支援に少しでも関わっていきたいと思います。

・自分にはまだまだ可能性があり、それをつぶしてはならないと思った。

・普段触れ合わない地元の地域と触れ合える事で、地域に対する意識が変わった。

Q4. 今後もボランティア活動、市民活動などに積極的に参加したいと思いますか？(平均：4.44点)

	とても思う	←	―	→	あまり思わない
点数	5点	4点	3点	2点	1点
件数	10件	4件	1件	1件	0件

コメント抜粋

・興味のある分野なら、参加したいと思う。

・就職してしまいますが、なにかあれば参加してみたいと思います。

・自分も人のために、これからも積極的に参加したいと思います。

・市民活動にとても興味がわいた。社会人になってもどうにか携わっていきたい。

所感

満足度が非常に高い結果となりました。「今まで関心を持たなかった分野に関心をもつようになりました。」との意見もあり、一市民活動団体の活動を通して、地域性や市民活動に目を向ける様になった様子が見受けられます。特筆すべきは「考え方が変わり、視野は広がったか」という問いです。普段出会わない、まちや社会を良くする大人たちに出会う機会となり、自分自身で出来る事への気づきに繋がっています。

また、インターン生同士の横のつながりや、他の受入団体との関わりができたことへの評価が高いです。社会性を身に付けながら、地域の市民活動団体に触れたという観点からも良い評価となりました。

アンケート結果 (受入団体)

目的：プログラムへの評価を知る。また、プログラムのニーズ及び、インターン受け入れに対する考えを確認する

回収率：100.0%

全体数 (N) ＝ 12

Q1. ワカモノ× NPO のインターンシッププログラムはいかがでしたか？(平均：4.42 点)

	とても満足	←	―	→	あまり満足していない
点数	5 点	4 点	3 点	2 点	1 点
件数	6 件	5 件	1 件	0 件	0 件

コメント抜粋

・運営面（資金面）で支えてくれるプログラムがこれまでなかったため、本プログラムの先進性と必要性を痛感すると共に心より感謝申し上げます。

・インターン生、受け入れ団体双方にメリットがある。

・社会的なルール、協調性を学ぶ、社会体験の場、気づきの場となる。

Q2.NPO へのインターンシッププログラムは必要だと思いますか？(平均：4.83 点)

	とても思う	←	―	→	あまり思わない
点数	5 点	4 点	3 点	2 点	1 点
件数	10 件	2 件	0 件	0 件	0 件

コメント抜粋

・地元に目を向けて地域課題や社会的課題について考えるきっかけになる。未知の世界を知ることが出来る。自分自身を成長させる場となれる。

・まだまだ NPO・NGO への理解度が低い中で、信頼ある組織から信頼ある NPO・NGO を紹介してもらう仕組み（プログラム）が必要であると思います。

Q3. インターン生との活動を通して、団体への変化はありましたか？(平均：4.08 点)

	とても思う	←	―	→	あまり思わない
点数	5 点	4 点	3 点	2 点	1 点
件数	4 件	5 件	3 件	0 件	0 件

コメント抜粋

・大学生の視点で見たことを聞けて新鮮でした。ブレストにも参加してもらい、20 代ならではのアイディアが聞けました。

・コーディネーターという役割の大切さを認識できた。

・団体の弱みや課題について、しっかりと目を向けるきっかけとなりました。

Q4. 今後もインターン生を受け入れたいと思いますか？(平均：4.67 点)

	とても思う	←	―	→	あまり思わない
点数	5 点	4 点	3 点	2 点	1 点
件数	8 件	4 件	0 件	0 件	0 件

コメント抜粋

・団体にいい刺激にもなるし、団体にもお金が入るというのが魅力的なので。

・できれば受け入れたい。受け入れ体制の目処が立てばぜひ再度参加したい。

・共に学び、成長する貴重な体験を得ることが出来る。そのためにはまず受入れ態勢をしっかり整えることが必要と思う。

所感

満足度が高い結果となりました。プログラム自体のニーズは高く、資金面でのサポートがある点、中間支援組織（※ P.4 参照）がインターンの事務局となり学生と団体をマッチングする点などが挙げられています。

印象的だったのは、インターン生にとっても受入団体にとっても刺激となり、「共に学び、成長する貴重な体験」とのコメントです。また、インターン生の受け入れに際して受け入れ側の態勢を整える必要がある点、ボランティア・コーディネーターの役割の重要性に気付いた、再認識したとのコメントも多く見受けられました。本プログラムの目的の一つとしている「組織基盤の強化」の観点から見て、良い手応えを感じる結果となりました。

ワカモノ×NPO

NOTE

所感・資料

活動報告書に寄せて

編集後記

巻末資料

WAKAMONO × NPO
INTERNSHIP PROGRAM

公益財団法人　トヨタ財団
国内助成グループ　プログラムオフィサー
喜田　亮子

トヨタ財団では、これまでの事業を通じ、将来、地域で民間の公益活動を担う人材のすそ野を広げていくことが重要と考え、2014 年度から地域の中間支援組織が実施する NPO インターンシップへの助成をスタートいたしました。

中間報告会・成果発表会でインターン生の発表を伺い、助成をさせていただいた立場として感じたことを下記に記させていただきます。

1. ミッションの明確化

成果発表会のプレゼンでは、インターン生が各団体の一員として団体紹介をしていただきました。活動内容のみならずミッションも伝わる内容となっていたことが印象的でした。インターン生がミッションを自分のものとして語るまで受け入れ団体の方との対話の積み重ねがあったと思われます。NPO インターンシップの成果の一つとして、若い人からの新鮮な投げかけを通じて改めて組織のミッションが明確になるという側面もあったのではないでしょうか。これから受け入れを考えられる団体にはそうしたことも視野に入れていただけたらと期待します。

2. 横のつながり

参加団体を越えてインターン生同士がとても仲良くなっていた様子を感じました。暮らしをめぐる課題は、総合的なものでなかなか一つの団体、一つの処方箋で解決することはできません。ここで生まれた横のつながりを大事にし、それぞれが社会に出て違う道を歩んでも、それぞれの立場で社会課題に取り組み、必要に応じて連携できる関係になればと期待します。この事業をきっかけに受け入れ団体同士のつながりも深化すればさらなる成果となるのではと思います。

私どもの助成事業は後 2 年間継続します。より多くの方に参加していただき、その方々からさらに周りへと発信され地域の NPO 活動への共感と参加がますます促進されれば何よりです。

■編集後記

本プログラムはトヨタ財団さまをはじめ、様々な方のご協力の上に成り立っています。学生がなるべく早い時期に地域や市民活動に触れ、市民活動団体は学生と協力しながら「人の巻き込み力」向上を目指し、そして学生と市民活動団体が共に刺激し合って成長する、そしてその仕組みが全国的に展開して行くことを目的としています。この波が社会に浸透してゆけば、と思います。改めまして、本プログラムにご協力いただきました皆さまにお礼申し上げます。

永山　愛

ワカモノ達とお会いする度に感じる変化（成長と一言では言い表せない程の変わり様でした！）に喜んだり、驚いたり。現場訪問時（活動拠点だったり、イベント会場だったりしました）や活動記録での一言の中で、受入担当者の方をはじめとした団体のスタッフの方々とのやりとりを目の当たりにし、信頼関係で結ばれてきたからでしょうか。約半年でこんなに変われる体験は滅多にないでしょうね。色々改善しながら継続してほしい事業です。

仲村　美津子

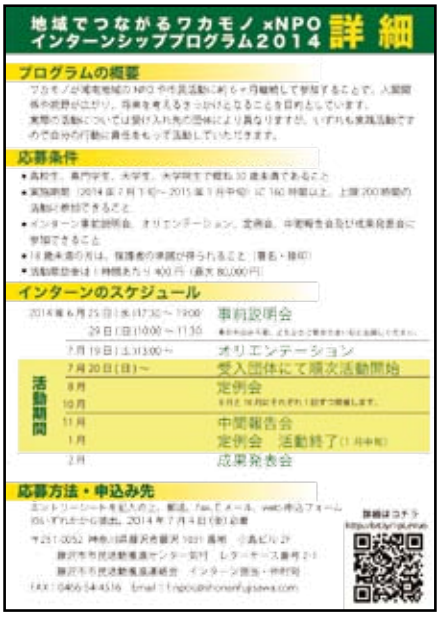
新たな出会いをきっかけに、点と点がつながり線になっていく、本プログラムにそんな印象を持っていました。インターン生たちの表情、言葉、仕草に日々成長を感じ、その日々をともに過ごせたことは、私のなによりの誇りです。また、様々な場面でかかわってくださったみなさまに感謝しております。いつか、どこかで、ワカモノたちがこの７ヶ月のことを思い出し地域の大人へとなっていってくれたら、そう願います。

今野　照美

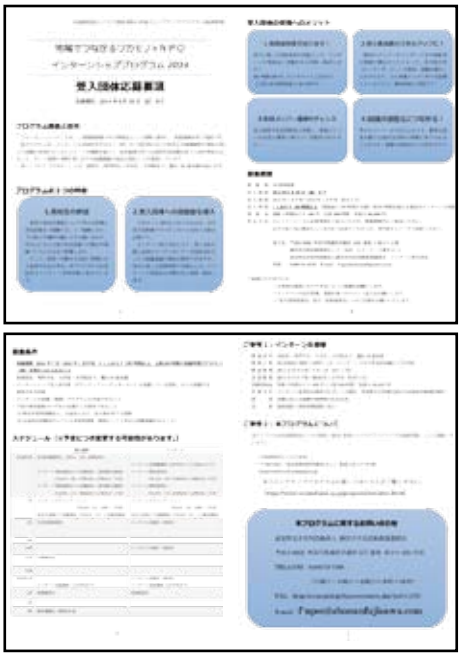
巻末資料

説明会のお知らせから始まった資料作成ですが、チラシ完成後は、受入団体･インターン生それぞれの募集要項と、エントリーシート、活動開始後はそれぞれの活動記録票を作成して管理いたしました。活動記録は定例会ごとに写しを回収（またはメール添付での提出）して、団体記録との照合を行いました。記録票は日報ともなるので、成果発表時や報告書作成にも役立つという説明をしました。自由記入ですがみなさん思い思いに書いていただけました。

インターン募集チラシ

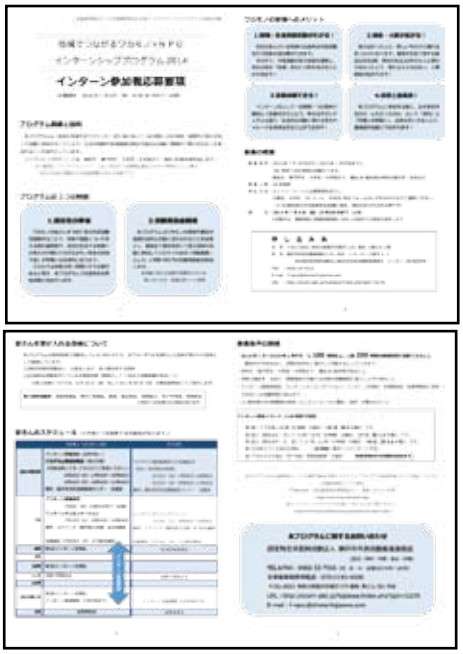


受入団体募集要項



受入団体エントリーシート

インターン生募集要項



インターン生
エントリーシート

活動記録票 (インターン生用)

活動記録票 (受入団体用)

地域でつながるワカモノ× NPO インターンシッププログラム 2014
活動報告書

発行：2015 年 5 月
印刷：中央印刷有限会社

編集責任：理事・事務局長　手塚　明美
事業担当：永山　愛・仲村　美津子・今野　照美
冊子監修：金田　麻沙子

発行：認定特定非営利活動法人　藤沢市市民活動推進連絡会
〒 251-0052　神奈川県藤沢市藤沢 577 寿ビル 301 号室
電話・ファックス：0466-53-7366
ホームページ：http://f-npon.jp/
メール：npoipg@f-npon.jp

本書の一部あるいは全部について、無断で転載・複製することを禁じます。
商業目的による本書情報の利用を禁じます。

認定特定非営利活動法人　藤沢市市民活動推進連絡会

WAKAMONO×NPO
INTERNSHIP PROGRAM